

# アドバイスレポート (別添2)

平成29年10月5日

# 汚物室 1



- 狭い空間を、整理して使用されていました。
- 浸漬用バケツには、透明の液体が入っていました。



補助者さんが消毒薬を作成し入れているとの説明でしたが、何の消毒薬で濃度はどれだけか、勤務者が把握できるよう明示が必要です。

# 汚物室 2



- モップが壁に立てかけてありました



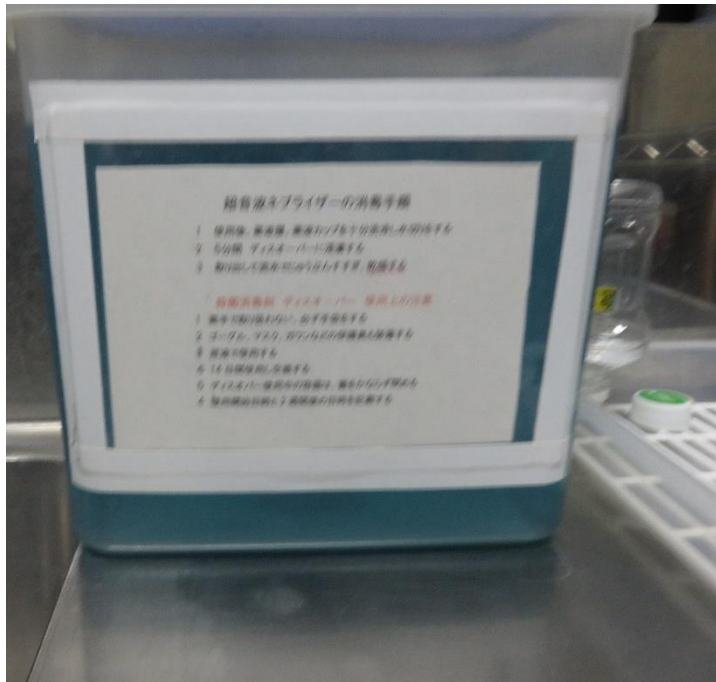
洗浄後とのことでしたが、使用前後の有無は不明であり、また使用後である場合、汚染が壁や柄の部分に拡がります。取り外しができるモップを使用し、使用時にセットする仕組みにしてはどうでしょうか。

# 洗浄室 1



- 清潔な吸痰用サクシオンチューブは、滅菌保障できる場所で管理しましょう。水周りから離れた所に保管してください。
- 清拭車は、しっかり乾燥されていました。使用前のタオルは、水はねによる汚染を受けない所で管理しましょう。

# 洗浄室 2



- 超音波ネブライザーの消毒にアイソパー®(フタラール)を使用していました。



- 残留薬液による粘膜への化学熱傷のリスク、取扱者への曝露リスクがあるため、十分な洗浄と換気の良い場所や防護具の徹底が必要です。以上のことから、吸入器はセミクリティカル器具にあたりますが、熱水消毒もしくは次亜塩素酸ナトリウムによる中水準消毒も適応とされていますのでそちらをお勧めします。

# 体温計の浸漬



体温計は、セミクリティカル器具ですが、粘膜に使用する体温計でなければ中水準レベルの消毒が推奨されています。

本体は、消毒用エタノール清拭2度拭きが推奨されています。

患者退室後など容器は、0.01%次亜塩素酸ナトリウムへの1時間浸漬し、乾燥させる。

-2014年 病棟で使える消毒・滅菌ブックより-

オスバン液は、低レベルの消毒ですので、効果が不十分です。

また、しっかり乾燥させるために、食器乾燥機などの購入が望ましいと考えます。

# 洗淨室 3



- スポンジが乾燥できるように吊るす等の工夫がされていました。
- 洗淨後の物品が吊るされたままになっています。乾燥したものは速やかに片付けましょう。またペアンなどの物品も、体温計同様に自然乾燥ではなく乾燥機の使用、もしくは滅菌供給部門での洗淨乾燥が望まれます。

# オムツ交換ワゴン



- PPE着脱順序ポスターがあり、すぐ確認できるようになっていました。
- 1回使用毎、準備するように活用されていて、不要な物を常設せず、清拭しやすいよう工夫されていました。
- 手袋やマスクも常備されているとよいと思います。



# 処置用ワゴン



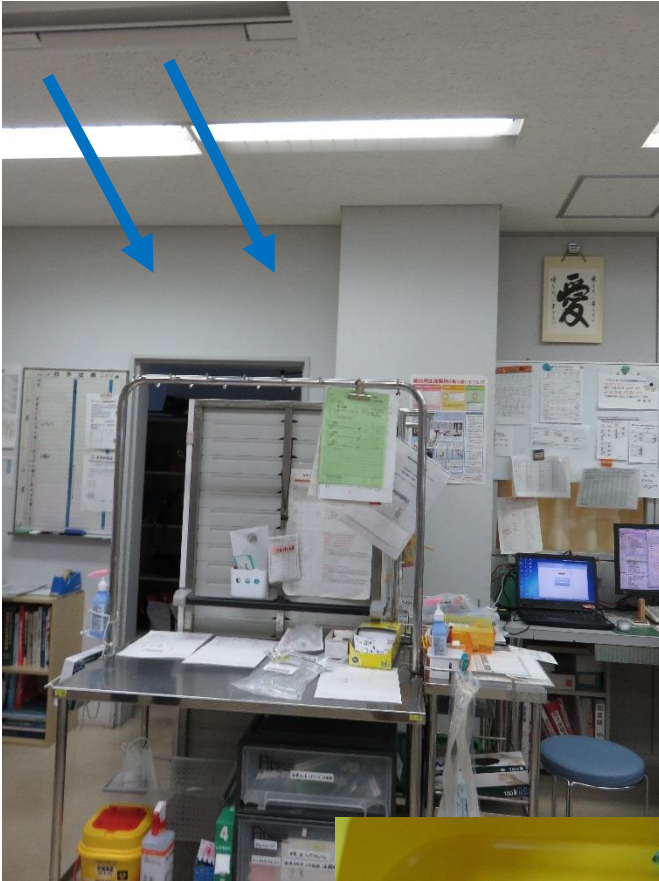
- 整理されていますが、全体的に物品が多いです。
- 上段には物品を置かないように整理しましょう。
- ワゴンの廃止や患者毎に準備するスタイルへの切り替えを検討しましょう。

# 新生児用救急カート



- 整理整頓をお願いします。救急カートと処置ワゴンは別にしたほうが、安全で清潔な作業ができると思います。
- 衛生材料と患者使用物品は区分けしてください。
- 防護具は、取り出しやすい位置に設置しましょう。最下段では、埃がかかる危険性があります。

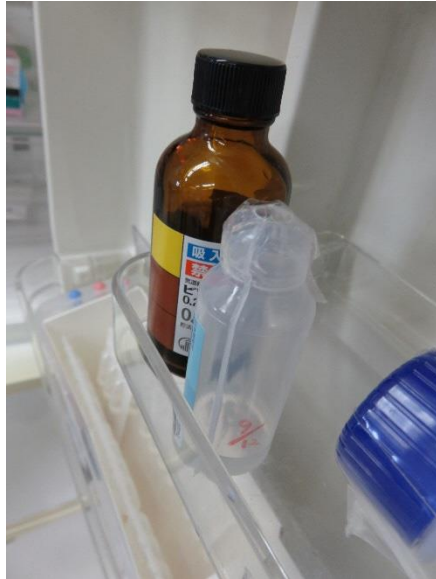
# 点滴ミキシング環境



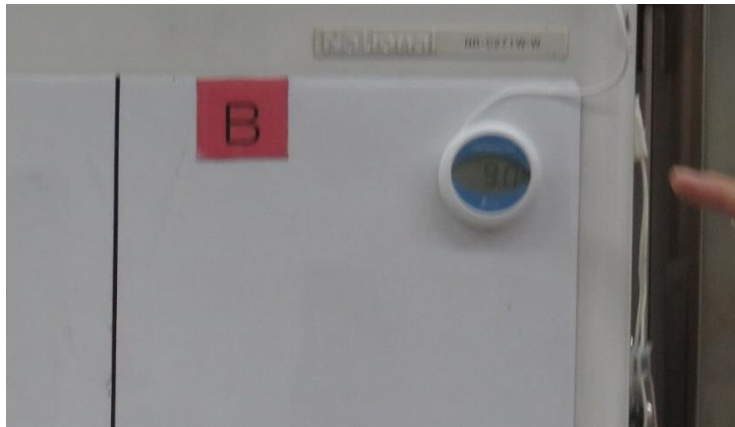
- 気流の影響が気になります。
- 血液付着した針が捨てられています。清潔エリアにて使用済み物品が持ち込まれる動線になっていないか確認しましょう。また清潔エリアであることを表示し交差しないようにしましょう。



# スタッフステーション内冷蔵庫



- 開封済みの薬液口をテープ？でふさいでいました。使いきりにしましょう。
- 庫内温度がわかるようにセンサーを取り付ける工夫がありました。表示部分が庫内にあったので、一目で見れるようにラウンド時に外に出しました。他のスタッフステーションのセンサーも確認しておきましょう。



# 採血室

- 患者用椅子が、丸椅子でした。(写真なし)

採血による迷走神経反射で、突然倒れた場合、職員が誤って針刺ししてしまう危険性があります。

背もたれのある椅子に腰掛けてもらい、安定した状態で採血することが、必要です。